

【防府市】地域ぐるみの防災キャンプ

〈ねらい〉

学校・保護者・地域・関係機関が連携し、災害発生時の危機管理について学ぶとともに、防災訓練や避難所生活を想定した避難所運営体験、宿泊体験、炊き出し体験、応急処置訓練等を含む総合的な体験学習を実施し、児童生徒が災害発生時において、正しい知識をもとに的確に状況を判断し、自ら安全に行動することはもとより、他の人や社会に貢献できる心と実践力の育成を図る。

実施内容

- 1 実施日時：令和5年8月3日（木）・4日（金）
- 2 実施場所：小野中学校、小野小学校、小野公民館
- 3 参加者：小野小児童22人、小野中生徒58人、保護者30人、地域住民50人
小学校教職員10人、中学校教職員13人
消防関係者7人（地域消防団員を含む）、防府市防災危機管理課職員3人

4 プログラム

【1日目】 8月3日（木）

10:30	受付
11:00	オリエンテーション
11:20	高齢者等への避難支援体験
12:30	昼食（弁当）
13:00	避難所運営ゲームを活用した学習
14:30	避難所設営Ⅰ
16:00	避難所運営（中学生中心）
17:30	ハイゼックスを使った炊飯体験・夕食
19:30	学習の振り返り
20:00	避難所設営Ⅱ
20:50	避難所で過ごす
22:00	就寝

【2日目】 8月4日（金）

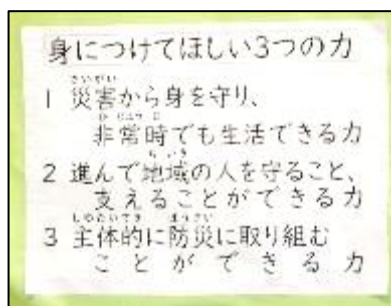
6:00	起床
6:20	ラジオ体操
6:30	防災食体験（準備・朝食）
7:00	掃除
7:30	避難所設営Ⅱ
8:00	避難所運営（小学生中心）
9:15	専門講座（4コマ）※1講座30分
12:00	昼食（炊き出し）
12:30	片付け
13:00	学習の振り返り
13:30	閉会行事
14:00	解散

5 活動の様子

1日目

《オリエンテーション》

小野小学校に参加者及び関係者が集合し、2日間のスケジュールと防災キャンプを通じて身につけてほしい3つの力について確認をした。



《高齢者等への避難支援体験》

2グループに分かれ、小野小学校から小野公民館と小野中学校に向けて出発し、高齢者等への支援体験を行った。通り慣れた地域の道でも、車椅子の介助等を体験することにより、細かな段差や傾斜があることに気づき、避難を支援することの必要性を理解することができた。



《避難所運営ゲームを活用した学習》

避難所運営の要点や留意点を掴むために、静岡県防災危機管理部が開発した避難所運営ゲーム（HUG）を行った。避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを図上で疑似体験することを通して、具体的で実践的な避難所運営のイメージを膨らませることができた。

また、グループに分かれて演習を行った結果、参加者同士の交流が促進され、連帯感が生まれることにつながった。



《避難所設営 I》

避難所入所及び退所の流れを確認後、避難所のルールや立入禁止場所等について協議を行った。

事前に避難所運営ゲームを行った結果、様々な事情を抱えた避難者が入所することを想定しながら、避難所設営に臨むことができた。



《避難所運営（中学生中心）》

小野中学校と小野公民館の2カ所に避難所を開設し、中学生が中心となって避難所運営を行った。避難者は保護者や地域住民、そして児童生徒がローテーションで務めた。

避難者の受入及び割振については、避難者が受付にて記入した「避難者カード」をもとに行い、避難所では避難者に対して、「災害への対策」や「地域の一員として小・中学生に求めること」等についてインタビューを行った。

避難所運営体験では、迅速な判断や確実な情報共有を求められる場面が多くあり、状況に臨機応変に対応することや、主体的に行動することの重要性について学ぶことができた。



《ハイゼックスを使った炊飯体験・夕食》

ハイゼックス（炊飯袋）を使い、炊飯を行った。簡単に炊飯することができたことに驚く一方、防災食に関心を持ち、いつ災害が起きても慌てないよう、防災食を含む備蓄品や常備品を事前に備えておく必要性に気づくことができた。



《避難所設営Ⅱ》

段ボールを活用し、試行錯誤しながら避難所の設営を行った。自分が寝るための場所を作ったり、段ボールを壁のように使い、間仕切りを作ったりした。避難所で一晩を過ごしたことにより、プライバシーの確保がストレスの緩和につながることを実感することができた。



2日目

《防災食体験・朝食》

パッケージに防災食の保存期間が7年と表示されていることに気づき、その他の防災食への興味をもっていた。食事を摂りながら、調理の手間がいないことや、容器を皿のように使うことができること等、防災食には様々な工夫があることについて話し、考えを深めることができた。



《避難所運営（小学生中心）》

前日の避難所運営体験の反省点等を確認し、小学生が中心となって避難所運営を行った。避難者の受付については、前日の中学生の動きに習い、スムーズに行うことができた。また、避難者の誘導を率先して行う等、役割分担に従い、積極的に行動することができた。



《専門講座》

防災士や消防団等の協力により、8つの講座が開設され、1講座30分で4講座を受講した。講師の方々の専門性を生かした講座により、一人ひとりが、「自分の身は自分で守る」、「自分たちの地域は自分たちで守る」といった自助・共助に関する考えを深め、日頃から災害に備えておくことの重要性を実感することができた。



ハザードマップを使って小野地域の防災について学ぼう



応急処置について学ぼう
～AEDの使い方～



応急処置について学ぼう
～手当の方法～



身近にあるものを使って避難生活に役立つ防災グッズをつくらう



防災グッズを使ってみよう
段ボールベッド、ワンタッチパーテーション、簡易トイレセット など



消火器の使い方を学ぼう



ロープワークでいろいろな結び方を体験しよう



炊き出し体験をしよう

《炊き出し・昼食》

小野地区女性連絡協議会の協力により、炊き出しによる昼食を行った。炊飯は薪を使って羽釜で行い、電気炊飯器で炊いた米との違いを感じながら食事を楽しむことができた。また、炊き出しの味噌汁には地域で育てられた野菜が使われており、地域との深い結びつきを感じることができた。



《振り返り、閉会行事》

片付け終了後、2日間の防災キャンプを通して学んだことについて振り返りを行った。

閉会行事では、県学校防災アドバイザーから「防災キャンプを通じて身につけてほしい3つの力」の視点から活動の総括があった。防災キャンプでの様々な経験を今後の生活に生かし、主体的に防災・減災に取り組むことの重要性について共通理解を図ることができた。



【児童・生徒の感想から】

避難支援	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすに乗っている時に、周りの人がやさしく声をかけてくれたので、安心して乗ることができました。車いすに乗ると視線が低くなり、周りが見づらくなつたように感じました。 ・高齢者疑似体験をして、若い人が物を持ってあげたり、危険を知らせてあげたりすることが本当に大切であり、必要であることに気づきました。 ・高齢者の方の大変さが分かったので、出会った時には、地域の一員として声をかけ、助けてあげたいと思いました。
避難所運営	<ul style="list-style-type: none"> ・避難者の状況によって宿泊場所を考えるだけではなく、様々なハプニングに対応しなければならないことが大変でした。 ・今回は避難所の設営をゆっくりできたけれど、実際に災害が起きた時には、100人以上の人が来ると思います。あわてて受付ができない人もいると思うので、気をつけたいです。 ・ルールを決めて避難所を運営しないと、混乱をまねくことになるので、本当に運営することになったら、周りの人と声をかけ合いながら協力したいです。
防災食	<ul style="list-style-type: none"> ・夕食に使うお米を炊飯した時、「家庭科でやったことないけどできるかな？」という気持ちもありました。しかし、おいしく作れたので、料理に自信をもつことができました。だから、家でたくさん手伝いをして、避難した時は家族に教えてあげたいです。 ・食べ物や飲み物が用意されていたけれど、本当に避難する場合は、今回のように用意されていないと思うので、防災食を持っておくようにしたい。
生活体験	<ul style="list-style-type: none"> ・私は昨日、ダンボールで寝ました。とても眠りにくかったです。でも、ダンボールベッドにすると、寝やすそうでした。 ・普段の生活がいかに楽だったかを知ることができたので、日々の生活にありがたみをもって生活していきたい。
専門講座	<ul style="list-style-type: none"> ・消火器を初めて使いました。とても重たくて、持つのが大変だったけれど、よい経験になりました。 ・雑誌のような厚い紙で皿を作りました。とても簡単にできたので、家でも作りたと思います。また、災害などで皿がなくなった時には、この方法を使いたいです。 ・ロープワークは結び方が複雑で難しかったけれど、いざという時に使うことができるかもしれないので、覚えておきたいです。 ・一定のリズムで心臓マッサージするのは難しかったです。
全体を通じて	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐに避難できるように、防災袋の中を時々確認する習慣をつけようと思いました。 ・いつ、どこで、何が起きるか分かりません。そのために、家族と一緒に準備をしようと思いました。 ・防災キャンプを通じて、地域の人や先輩、後輩など年齢関係なく、たくさん協力し合うことができたのでうれしかったです。 ・災害はいつ起きるか分からないので、パニックになる人が多いと思います。その時は、自分たちが避難所を運営し、地域の人が少しでも安心できる環境を作りたいです。 ・防災キャンプの経験を生かし、授業中に積極的に発表したり、委員会活動で委員のみんなと協力したりして活動に取り組みたいです。 ・防災キャンプでは地域の方々がたくさん協力してくれたので、私も進んでボランティア活動をしたり、あいさつをしたりしたいです。

《8月27日（日）防災キャンプまとめの授業・参観日》

防災キャンプでの2日間の取組を振り返り、小野中学校が自分自身の防災に関する実践力の向上を実感するためのまとめの授業を実施した。

